

第1回 川口中学校区地域づくり推進会議 議事概要

日時	2021年6月27日(日)9:30～12:00
場所	川口中学校 被服室
出席者	参加者:荒井、稲原、大石、白鳥(豊)、白鳥(信)、高野、田倉、田野倉、外山、内藤(佳)、 内藤(ト)、中尾、中村、平井、古田、安田、山口、 社会福祉協議会:大島 高齢者あんしん相談センター川口:内藤、小林、太田 第1層生活支援コーディネーター:今泉 八王子地域 PAL-ETTE:塩澤、佐藤、小熊 未来デザイン室:今川、野田、安齋、橋本、牧瀬 RPI:丸木、笠原、伊藤、北浦
見学者	川口中学校:鷺尾校長 八王子未来 CAN-VAS:石井
配付資料	・第1回川口中学校区地域づくり推進会議資料 ・資料1 川口中学校区と八王子市の現状 ・資料2 【川口B-1】第2回中学校区別ワークショップ取りまとめ ・資料2 【川口B-2】第2回中学校区別ワークショップ取りまとめ ・参考 川口中学校区におけるワークショップアンケートの結果について

1. 開会

- ・未来デザイン室、川口中学校鷺尾校長から挨拶。

2. 事前説明

- ・「地域づくり推進事業」及び「令和3年度(2021年)の活動概要」について、配付資料をもとに未来デザイン室から説明。

3. オリエンテーション

- ・参加者をはじめ、出席者全員による「自己紹介」を行った。
- ・地域づくり推進会議の検討内容やスケジュールについて、配付した資料をもとに説明。

【意見・質疑応答】

- ・八王子ビジョン2022の策定に向けて、平成23年(2011年)に「八王子ゆめおり市民会議」で検討したが、その計画に対する現在の実行率・達成度といった情報が市民に届いていない。
本市では、八王子ビジョン2022が目指す基本理念の実現に向けて、各分野の施策に取り組んでいる。現在、取組の進捗について課題出しを行いながら取りまとめしており、市民の皆様にも提示できるよう準備を進めている。(未来デザイン室)
- ・八王子ビジョン2022の途中経過を見ることはできるか。
取りまとめについては、先ほど御説明したとおり、現在準備を進めている。結果は議会に報告するとともに、市民の皆様にも示すことができると考えている。また、計画を達成するために残り1年半で何ができるのか、未来につなげるために何をすれば良いのかを検討している。(未来デザイン室)

- ・各分野で市が作成する実行計画は、策定過程において審議会等を設置し、検討されている。その計画を見ると、良い内容が盛り込まれているが、実際に取り組む事業所管の動きが鈍く、意識の差を感じる。今盛んに言われている組織の縦割りの弊害が顕著に現れているのではないか。
- ・未来デザイン室では、八王子市の様々な部署を集約し、縦割りの弊害を無くした体制づくりはできるのか。市としてもどのように変わるべきなのか、現在そのための検討を重ねている。今後も庁内でしっかりと連携して体制づくりを進めていくことが必要だと考えている。(未来デザイン室)
今回配付した資料のなかに、「分野横断的な推進体制の構築」と記載しているように、縦割りの弊害については大きな課題だと捉えている。庁内でもその課題に向き合おうと検討を始めた。しっかりと向き合っていきたい。(未来デザイン室)
- ・地域づくりが進んでいると言われている新潟市と豊中市であっても、各所管の連携体制が取れていないと感じた。八王子市では、未来デザイン室を中心に、そのような体制づくりが本当に可能なのか。
縦割りの弊害については、課題意識を持っており、庁内横断的に課題解決を行うしくみづくりに取り組んでいる。一例としては、情報共有の場でしかなかった部課長による会議とは別に、皆で考え、意見を言い合える会議体を作ろうと取り組んでいる。(未来デザイン室)

4. 議題

ア 川口中学校区の現状を理解しよう

- ・資料 1(川口中学校区及び八王子市の現状)に沿ってグラフやヒアリング結果を説明。

イ 中学校区別 WS(第 2 回)の検討結果を振り返ろう

- ・資料 2(中学校区 WS のまとめ結果)について説明。

ウ 参加者の「活動内容」、「課題」、「今後の展望」を共有しよう

- ・議題ウのワークの内容については別紙 1(第 1 回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容)を参照。

エ 地域づくり推進会議に関する意見交換

○開催日時について

- ・ワークショップの際に提出いただいたアンケートでは、土・日曜日の午前中であれば参加しやすいとの意見が多かった。その条件で第 4 回以降の日程案を提示してよいか。(未来デザイン室)

良い。

○開催場所について

- ・今回は、学校教育部の協力のもと、川口中学校を会場として開催させていただいた。今後、本会議を開催するにあたり、人数の増え方にもよるが、他の会場が良いなどの御意見があればいただきたい。(未来デザイン室)

特になし。

- ・今後も会を重ねながら、その都度、参加者の皆様の意見を頂戴していきたい。(未来デザイン室)

○参加者について

- ・今後、本会議で検討するにあたり、どのような方が加われば、多様な意見を取り入れることができるのかについて今後、御意見をいただきたい。(未来デザイン室)

○プログラムについて

- ・今後人数が増えてきた時、それぞれが意見を出し合うためには、現在の時間進行では難しいのではないかと、2 時間の会議の中で、皆がしっかりと意見を述べられるような方法を検討して欲しい。

5. 感想

- ・八王子地域 PAL-ETTE 及び社会福祉協議会、高齢者あんしん相談センター川口などが今日の振り返りと感想を述べる。

6. 閉会

- ・未来デザイン室より挨拶。次回推進会議のスケジュール及び場所の確認。

以上

第1回 川口中学校区地域づくり推進会議 ワーク内容

ステップ1:活動内容、課題

名前	活動内容	課題
荒井	地域住民(会社役員) ・地域包括ケア。地域食堂など、地域内での支援活動をしている。	・組織を確立していくこと。 ・特に、行政と連携した協働の形をどうするか。
稲原	川口小学校 PTA 相談役 ・子供たちの安全・楽しい環境づくり	・活動の担い手不足 保護者は共働きで忙しい。 一方、地域の方々に協力をいただいている。
白鳥(豊)	地域住民(自営業) ・大手企業の誘致及び雇用創出	・市の立地が悪く、企業誘致は難しい。
白鳥(信)	川口福寿草の会代表 ・地域活動をボランティアから有償(1時間あたり500円)に変更した。 収入だけではなく、生きがいを得られる活動にしていきたい。	高齢者への支援が行き届かない。 ・担い手不足 後継者・マンパワーとしての若い人材の不足。加入促進が課題。 ・移動手手段の制約 自動車の移動が禁止されて遠隔地に行けないことや、ガソリン代といった経費負担の問題がある。
高野	川口やまゆり住民協議会会長 ・地域の土地利用の促進 農地・自然活用 地域の農産物ブランド化 宗兵衛裸麦は他から入手して増やし、700平米の作付けまでしている。 自然体験	・担い手不足 次の世代が育っていない。 ・川口エンドウや宗兵衛裸麦のブランド化を進めるにも担い手・販路・出荷量などの問題がある。 どうやって進めればいいのか？
田倉	川口中学校学校運営協議会会長 ・学校と地域の協力による様々な活動	・後継者、仲間、協力者の不足 「困っている人」も「助ける人」も高齢者になっており、仲間、協力者が不足している。
田野倉	国際協会会員 ・外国籍の児童、生徒の学習(日本語)支援をしている。	・支援者不足 ・支援内容が周知されていないため、多くの方々に知ってもらえるよう取り組んでいく必要がある。

名前	活動内容	課題
外山	川口小学校 PTA 会長	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA の担い手不足 役員、委員、ボランティア ・役員やリーダーのあり方 ・オンラインへの対応 PTA の役員はオンライン OK だが、全体となるとオンラインが普及しきっておらず、オンライン化できない。 オンラインだけだと顔を突き合わせることができないので、「つながり」への影響がある。
内藤(佳)	川口中学校 PTA 会長 ・PTA の改革	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA のなり手不足 なり手がいないため、個々の負担が大きい。また、「会議は嫌」との声もある。 委員を廃止しボランティア化した。会費的にも軽減が図られる効果があった。ただし、本部役員のなり手不足は依然として存在している。
内藤(ト)	民生児童委員第 9 地区会長 ・地域住民の相談を関係機関と連携して解決している。	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の増加 ・民生委員一人当たりの担当者数が増えており、高齢者のフォローが行き届かない。(話し相手がほしい高齢者のフォローは時間がかかる。) ・民生委員のなり手不足
中尾	松枝小学校 PTA 副会長 ・子供たちのための活動をしている。	<ul style="list-style-type: none"> ・つながりの希薄化 人のつながりが希薄化しているため、不審者情報が出たら実は知り合いの高齢者だったというようなことも起きている。 子供たちのための活動をしている団体と横のつながりも必要。 ・PTA 本部役員のなり手不足
中村	民生児童委員第 9 地区主任児童委員	<ul style="list-style-type: none"> ・児童相談所の相談件数が年間で 1800 件から 2360 件に増えている。 ・周りの人に助けてもらえる子育てが必要 共働き時代、父母だけでは限界があり行き詰まる。10 分の抱っただけでも助かるため、「地域で一緒に育てる」ようにしたい。 ・支援を必要としている人の情報が入ってこない。 個人情報もあり提供してもらえない。 ・八王子市民 56 万人中、手伝ってくれるのは 100 軒程度しかない。

名前	活動内容	課題
平井	市民活動協議会会員 ・地域の居場所づくりとして、空き家を利用し、そば打ちを手法とした体験型コミュニケーションサロンを運営。	・情報発信の手法 場所、システム(動画・テレビ・ラジオ)、ノウハウなどが必要。教えてほしい。 ・無償活動の持続性 収入のために仕事をしないといけない。ちょっとでも収入があれば違う。地域活動をコミュニケーションビジネスにしていきたい。
古田	上川口小学校学校運営協議会会長 ・地域と連携し、子供たちが安全で安心して充実した学校生活が送れるよう取り組んでいる。	・行政との連携方法 住民の力だけではどうしようもないこともある。そんな時に、行政の力も借りたいが、相談先や方法がわからない。
安田	上川口小学校 PTA 会長 ・児童の学校生活サポート ・学校行事のお手伝い、ボランティア ・保護者同士の情報交換 ・地域との連携(見守り、祭り etc)	・児童数の減少 ・地域のつながりが強い地域。小規模の小学校の魅力や保護者の声を発信したいが、場がない。 地域外から当校に通わせている親がいる。一方で、「小規模校 = 全員 PTA」というイメージで避ける人もいる。
山口	町会自治会川口地区連合会副会長 ・一人暮らしが増えており、見守りが必要になっている。	・地域の問題は地域で解決したいと考えている。 ・町会加入者の減少 理由として、 高齢者が町会活動に参加できない。 町会に入るメリットは？と聞かれる。 ・役員のあり方も課題となっている。